

平成27年度鹿児島県広報コンクール

① 広報紙 ② 発行部数・年間発行回数 ③ 判型・平均ページ数 ④ 担当課

■ 広報紙部門

〈 特 選 〉



- ① 広報きりしま（平成27年7月号）
- ② 46,000部・12回
- ③ A4判・28ページ
- ④ 秘書広報課



○ 講評

〔企画〕

● 特集「未来への遺言」

- ・戦後70年の節目となる重いテーマを紹介だけでなく調査まで踏み込む力作。メッセージ欄を設けたアイデアもいい。
- ・戦争体験者の声でリアル感を持たせた上で、市内に残る特攻基地を題材にマスコミで報道されていない内容を盛り込んで読者の気付きにつなげ、幅広い層に平和への思いを受け継ぐ意味、今を生きる者の使命を考えさせるという構成力はさすがだ。読者がメッセージを残すために空白のページを設けたり、特集を夏休み前の7月号に掲載したりして読者の行動につなげる手法も実に戦略的だ。

● その他

- ・「思い出の味」「ドリーム夢のカタチ」「人の風景～霧島に生きる」「郷土史への扉」の内容、そしてクーポン券付き絵はがきで寄せられた「読者の声」の充実ぶりなど、「地域の魅力を新発見・再発見し、ますますこのまちを好きになってもらう」というコンセプトで、「住民目線」の広報紙づくりの姿勢が随所に表れている。

〔文章〕

- ・リズムが単調にならないよう、文末表現に気を使っていることが伝わる。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・特集フロントと終面の写真対比はテーマの余韻が残る秀逸な仕掛け。
- ・記事の文章をはじめ、見出し、写真、レイアウトのいずれをとっても全国レベルの高い水準で、さらに磨きがかかっている。

〈 入 選 〉



- ① 広報たるみず（平成27年8月号）
- ② 8, 200部・12回
- ③ A B判・44ページ
- ④ 企画政策課



○講評

〔企画〕

●特集「平和をつなぐ。」

- ・体験者と学生との交流を通してテーマを身近に引き寄せ、読ませた。
- ・8月に合わせた特集は12ページを使い、「記憶と記録に残すべき」特集の意図が伝わる労作。市出身の2人の戦争体験談、親族の話を中心に、高校生や学校の先生たちの戦争、平和への思いまでつなぐ構成ぶりは読み応えがある。

●その他

- ・垂水ニュース、まちの話題などこまめに記事を拾っている。
- ・読者の声を紹介し、公式イメージキャラクター「たるたる」の返事を紹介するコミュニケーションコーナーは市民との双方向性がうかがえる。

〔文章〕

- ・センテンスを簡潔にまとめ、読みやすい。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・特集はやや単調で白っぽさが目立つ。レイアウトにバリエーションを付ける工夫がほしい。



〈 入 選 〉



- ① 広報あいら AIR View (平成27年7月号)
- ② 29,000部・24回
- ③ A4判・24ページ
- ④ 秘書広報課



○講評

〔企画〕

●特集「クローズアップ 太平洋戦争終戦70年企画『日本史に登場しないわたしたちの記録』」

- ・しっかりとニュースを掘り起こし、分厚い内容で読ませた。
- ・関係者の体験談と残された記録を基に70年前に市内であった空襲や、学童疎開、引き上げなどのテーマごとに戦中戦後のエピソードを掘り下げた16ページにも及ぶ労作。身近な郷土も戦地になった歴史を後世に伝える「記憶遺産」として多くの反響があったこともうなずける。

●その他

- ・「今月の始良人」や「島津義弘の足跡をたどる」「錦江湾に住む旬の生き物たち」「健康生活」「ぶらっと、まちかど図書館」などの決まりものも定着していることがうかがえる。市民の要望・意見を受けて、紙面でやり取りする「読者の声」など双方向性も維持。

〔文章〕

- ・文章はリズム感があり、簡潔で読みやすい。表現が単調にならないよう各センテンスに気配りが感じられる。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・地図やイラストを効果的に挿入し、白っぽさがなくレイアウトにも工夫が光る。
- ・重い特集テーマを硬派にまとめた表紙も秀逸。
- ・写真やレイアウト、見出しも安定感を増している。



〈 入 選 〉



- ① 広報かのや（平成27年12月号）
- ② 42,900部・24回
- ③ A4判・28ページ
- ④ 広報広聴課



○講評

〔企画〕

●特集「みんなで育てる笑顔の芽」

- ・ 関心の高いテーマを図表を交えて、分かりやすくまとめている。
- ・ 医療費の現状や健康づくりの取り組みを専門家や市民の活動も織り込みながらよくまとめている。ただ、トップに掲載した方がインパクトがある。

●その他

- ・ 50年ぶりに復活した「花岡コショウ」は表紙写真だけではもったいない。復活の経緯や取り組みを特集してもよかった。
- ・ 市民からのお便りを紹介する「市民のひろば」（プレゼント付き）、「大人の社会見学」「明日への扉」は市民との双方向性がうかがえる。

〔文章〕

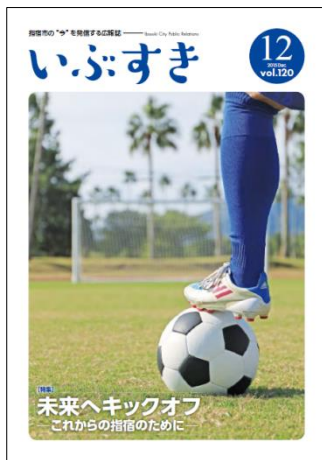
- ・ 文章が簡潔で読みやすい。

〔デザイン・レイアウト〕

- ・ カラフルできれいに整理されているが、フォトスクラップの見出しテーマが色ごとにまとめてあるかと思いきや（例えばイベント）次のページでは異なるなど一貫性がない。色でテーマをカテゴリ分けした方が分かりやすい。



〈 入 選 〉



- ① 広報いぶすき（平成27年12月号）
- ② 19,600部・12回
- ③ A4判・30ページ
- ④ 市長公室



○講評

〔企画〕

●特集「未来へキックオフ」

- ・未来に向かって歩む人の姿がよく描き出されており読ませた。
- ・新年を迎えるにあたっての希望に満ちたテーマ選定も良かったのでは。
- ・人口減少問題を考える上で、市版まち・ひと・しごと創生総合戦略を前面に出すのではなく、移住や男女の出会い、地域資源の視点から市民の声を拾い、市の魅力を生かすための「場づくり」の取り組みを紹介しているのがいい。

●その他

- ・「いぶすきの温人」「寄ってらっしゃい湯豊宿茶屋」は身近で、市民参加型。

〔文章〕

- ・文章が簡潔で読みやすい。

〔デザイン・レイアウト〕

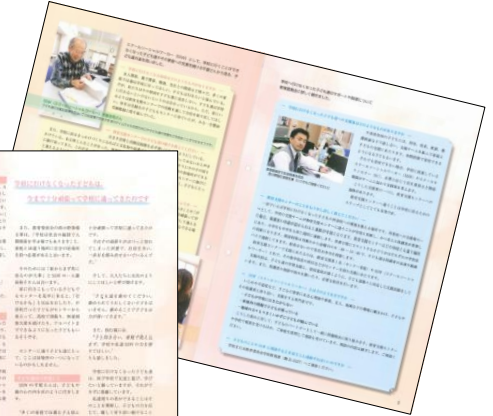
- ・写真に文字載せする場合、背景によってはごちゃついて読みにくいし、写真自体も殺してしまう。
- ・「知ったく情報掲示板」「まちの話題」はコンパクト、最終面のインフォメーションカレンダーも見やすい。



〈 入 選 〉



- ① 広報いちき串木野（平成27年2月号）
- ② 13, 500部・13回
- ③ A4判・30ページ
- ④ 政策課



○講評

【企画】

- 特集「僕は君の力を信じている ～教育支援センターからのメッセージ～」
 - ・普段の生活ではなかなか見えないテーマに切り込んでみた視点がいい。
 - ・市町村広報紙でなかなか取り上げにくい不登校問題をテーマに据え、スクールソーシャルワーカーや教育支援員のサポート体制も取材したことには敬意を表したい。
 - ・掲載後にどんな反響があったのか、編集後記または次号に紹介してほしい。
- その他
 - ・「まちの話題」もよく拾っていて、紙面上もコンパクトにまとまっている。
 - ・「食の情報室」「かわいい天使たち」も継続・充実を。

【デザイン・レイアウト】

- ・特集は、挿し絵など活用してもう少しメリハリがあってもよかった。
- ・行政情報のおしらせ版はもう少しコンパクトにできないか。

